
 短 報

 小笠原諸島における
 シロハラクイナ (*Amaurornis phoenicurus*)の観察

 千葉勇人¹

1985年1月7日・8日の両日、東京都小笠原村母島字元地においてシロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus* 1羽を観察、撮影したので報告する。これは冬鳥分布調査のため1月6日から8日まで同島に滞在した際に記録したものである。

7日7時30分頃、大谷川沿いに乳房ダムから戻る途中、沖村浄水場前の同河川で、シュロガヤツリの茂みから姿を現し、筆者の存在に気づき前方の茂みに隠れたシロハラクイナ1羽を観察した。そのまま同地点で15分程待ったが再び観察することはできなかった。

8日6時30分過ぎ、前日と同地点で待機したが出現しないため、上流に向かって歩きながら観察を開始したところ、30m程上流にいるシロハラクイナを観察した。警戒心が強くまたすぐに茂みに隠れた。8時頃再び確認することができたので見晴らしのきく地点で待機した。その後、15m程先のシュロガヤツリの茂みの下の、水の淀んでいる所に現れ、水浴び後羽づくろいをしている際に撮影した。

同河川は砂防指定をうけているため、両岸がコンクリートブロックで護岸され河床もところどころにコンクリートで固められた部分があり、その部分がオープンスペースになっている他は、シュロガヤツリを代表とする植物が繁茂している。河幅は2m位と狭く、集落内を流れているため、シロハラクイナの行動範囲は限られているように思われた。

筆者は、1984年1月19日、父島・小曲ダムにおいてもシロハラクイナ1羽を観察している(未発表)、84・85年と2年続けての冬期の記録であり、どのような経路で渡ってきたのか興味もたれる。

なお、小笠原諸島ではシロハラクイナは、今回の報告が最初の記録であり、日本鳥学会(1974)、樋口(1984)には記載されていない。

文 献

日本鳥学会 1974 日本鳥類目録第5版 学習研究社
 樋口行雄 1984 小笠原諸島の鳥類目録 Strix Vol.3 73-87

THE FIRST RECORD OF THE WHITE-BREASTED
 WATERHEN *AMAURORNIS PHOENICURUS* IN BONIN ISLAND.

HAYATO CHIBA

One White-breasted Waterhen *Amaurornis phoenicurus* was found on January 1985 on Hahajima Island. It was the first record of this species in the Bonin Islands.

MiyanoHamamichi-Shokuju 101, MiyanoHamamichi Chichijima Ogasawara-Mura
Tokyo 100-21

1985年9月18日 受理

1. 〒100-21 小笠原村父島字宮之浜道 宮之浜道職住101

茅ヶ崎市におけるタカブシギ *Tringa glareola*小群の越冬について

新倉三佐雄¹

タカブシギ *Tringa glareola* は、私の住む神奈川県下では、春と夏から秋にかけてのシギ・チドリ類の渡りのシーズンに、比較的普通に観察されるが、近年茅ヶ崎市内の湿田で、小群が越冬するのを観察したので報告する。

1. 越冬場所

相模湾の海岸線から北側内陸方向に約3km入った茅ヶ崎市赤羽根地区および、同所から北西に約1.5kmのところにある茅ヶ崎市堤地区、下寺尾地区にある湿田である。赤羽根と堤・下寺尾の湿田の間には、主にゴルフ場に利用されている海拔30~50mほどの丘陵がある。赤羽根の湿田は、この丘陵の南側のすそのにひらけており、面積約20haである。堤・下寺尾の湿田は、その北側に広がる丘陵と主にゴルフ場に利用されている丘陵にはさまれ東西に細長く続いており、面積約18haである。

2. 越冬状況

1) 1981年から82年にかけての冬

82年1月20日に堤・下寺尾の湿田で6羽を初めて観察。その後1月25日7羽、1月31日6羽、2月5日5羽、2月11日4羽を観察した。観察場所は、堤・下寺尾の西側の一画で、刈り取った後の湿田と休耕地が農道に沿って広がる環境である。ここには、厳冬期にも凍らないわき水の流れが湿田内を流れているところがあり、冷え込んだ朝などタカブシギか、そのような場所で採餌する姿が観察された。

2) 1983年から84年にかけての冬

83年11月13日5羽、11月15日9羽、11月20日6羽、12月14日2羽、12月24日6羽、12月29日2羽を赤羽根で観察。84年1月15日5羽、2月11日3羽、2月17日4羽、3月11日2羽を堤・下寺尾で観察した。この冬最初に観察した場所は、赤羽根の湿田の西側のはずれに近いところであったが、日



図1. タカブシギの成鳥冬羽。
Fig. 1. Winter plumage of *T. glareola*.